

県立高等学校の魅力化について

1 県立高等学校の魅力化の推進

これまで各高等学校が果たしてきた役割や取組などを踏まえ、今後、それぞれの高等学校に求められる使命を改めて確認し、魅力ある教育環境づくりを進める。

2 魅力化に向けた取組

(1) 高等学校入学者選抜制度改革【4 頁～5 頁参照】

- ・ 学力向上を図るため、全員が学力検査を受験
- ・ 特色選抜における「志願してほしい生徒像」の明確化と、実技やプレゼンテーション等の選抜の実施
- ・ 生徒が学校の特色を理解した上で、自分の特技や興味、関心に基づき、将来の進路実現に最適な学校に志願
- ・ 県立高等学校改革基本計画における各高等学校の役割の明確化、魅力化につなげる入試制度

(2) 福島県地域学校活性化推進構想に関する取組

① コミュニティ・スクールの促進【6 頁参照】

- ・ 県立高等学校前期実施計画において地域協働推進校に位置づけた 1 学級本校化の高等学校に導入し、地域と学校の協働により高校の魅力化を図る
- ・ 地域と学校とが、共通する課題意識や目標等を共有
- ・ 地域住民による地域の学校への当事者意識やモチベーションの向上による学校の教育活動の充実
- ・ 地域社会に支えられているという実感による、生徒の自己肯定感や地域への愛着、貢献意識の醸成

② 地域との連携による探究活動の推進【7 頁～8 頁参照】

- ・ 地域の企業等と連携し、各高等学校で地域課題探究活動を実施
- ・ 各高等学校で地域課題探究活動を実施
- ・ 「高校生地域貢献サミット」「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等の活動を通して課題を共有し、発信する機会を設定

(3) 各校の特色を図るための取組

① 福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成【9 頁参照】

- ・ 福島復興再生特別措置法に位置づけられた「福島イノベーション・コースト構想」を担う人材育成のため、平成 30 年度より実施
- ・ 各校の特色を生かし、地域の企業等と連携した新たな教育プログラムを浜通り等の 9 校で実施
 - トップリーダーの育成、農水産業人材の育成、工業人材の育成
- ・ 中通り、会津地方の高等学校と連携し、事業成果を全県的に展開

② スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組【10 頁参照】

- ・ 理数系科目に重点を置いたカリキュラムの開発や先進的な理数系教育を通じて、将来社会を牽引する科学技術人材の育成
（実施校）福島高等学校、安積高等学校、会津学鳳中学校・高等学校

③ ふくしま未来の農業者GAP教育実践事業【11 頁参照】

- ・ 県立高等学校10校が認証GAP（農業生産工程管理）を取得
- ・ 三重県、青森県のGAP教育実践校への訪問による生徒交流
- ・ 農業高校生が国際的に通用する経営感覚を身につけるとともに本県の誇りと感謝を伝える

④ ふたば未来学園高等学校における取組【12 頁参照】

○ 未来創造型教育

ア 生徒が主体的に動き、共に学ぶ先進の学び

- ・ アクティブ・ラーニング、地域を学習フィールドとした学び

イ ふるさと創造学サミット

- ・ 双葉郡の中学校との連携

ウ 未来を創造する学校

- ・ スーパーグローバルハイスクール（SGH）
 - 地域の課題を探り、その課題の解決を図り、地域の復興につながるテーマでの探究活動、研究
 - ドイツ、アメリカでの学び
 - 国内外での成果の発信

エ ICT（情報技術）の活用

- ・ 生徒全員がタブレットを使用しての授業、国内外の高校生と交流

オ 充実したサポート体制

- ・ 「ふたばの教育復興応援団」や大学・企業・NPO法人等との連携

⑤ 小高産業技術高等学校における取組【13 頁参照】

○ スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）

「東日本大震災・原発事故からの地域復興を担う人材の育成」

- ・ 工業科と商業科における学習内容を相互に学習するプログラム（Cross Training Program）による未来視点を有する人材育成

【工業科の取組】ロボット、再生可能エネルギー、環境問題等、新たな産業集積に対応できる工業人の育成

【商業科の取組】地域復興・活性化、地域資源の活用等、新しい技術をビジネスに活用できる人材育成

⑥ 勿来高等学校といわき支援学校くぼた校における連携【14 頁参照】

- 平成27年度にいわき支援学校くぼた校が開校し、1つの敷地内に2つの学校が立地

- 勿来高等学校とくぼた校が連携し、交流及び共同学習を実施

- くぼた校教員からのアドバイスによって、勿来高等学校でも特別支援教育の知見を生かした取組を実施

⑦ 英語指導力向上事業 小中高指導連携【15 頁参照】

(実施校) 会津若松市立城西小学校、会津若松市立第三中学校、葵高等学校

- 平成30年度から3年間実施
- 外部有識者による指導助言を受けながら、小中高を通したCAN-DOリストの研究、英語による授業、英語で表現する能力を高める指導・評価の研究開発

(4) 「県立高等学校改革前期実施計画」に伴う魅力化

今後、以下の実現に向けて取組を進める。

- きめ細かな指導の充実
- 進学指導拠点校への単位制の導入
- 医師や教員など新たなコース制の導入（普通科高校）
- 中通りへの中高一貫校の新設
- ICTの活用

令和２年度高等学校入学者選抜制度について

1 旧制度からの主な変更点

- 従来のⅠ期選抜（２月上旬実施）、Ⅱ期選抜（３月上旬実施）を統合し「前期選抜」（３月上旬実施）を設定。Ⅲ期選抜（３月下旬実施）は「後期選抜」として同様に設定。
- 「前期選抜」は、各高等学校がそれぞれの教育内容や地域性を踏まえた「志願してほしい生徒像」を具体的に示し、各校の特色に応じた「特色選抜」と中学校における学習活動の成果を総合的に見る「一般選抜」を実施する。
- 「前期選抜」では志願者全員に学力検査を課す。

2 前期選抜の概要

（１）特色選抜

- ・ 定員枠は募集定員の５％～５０％の範囲で、各高等学校が決定する。
- ・ 調査書・学力検査に加え、各校が独自に面接、小論文、実技等の特色検査を実施し、選抜資料とする。
- ・ 「志願してほしい生徒像」に応じ、受験生が志願する高等学校を主体的に選択し、出願することができる。

（２）一般選抜

- ・ 定員枠は、募集定員から特色選抜の合格者を除いた人数とする。
- ・ 調査書、学力検査、面接（校長の判断により実施）を選抜資料とする。

（３）その他

- ① 特色選抜は１つの高校の１学科に出願が可能。
- ② 特色選抜と一般選抜は、同一校において併願が可能。
- ③ 連携型選抜（連携型中高一貫教育を実施する中学校から高等学校への出願）については、前期一般選抜との併願が可能。

3 各高等学校の特色に応じて実施する選抜方法の内容

（１）「志願してほしい生徒像」の特徴ある内容

- ① 地域貢献活動やドローンの活用に取り組む決意のある者（船引）
- ② 地域における伝統文化の継承活動に関心を持ち積極的に取り組む者（会津農林）
- ③ 実用英語技能検定準２級以上等を取得している者（福島、福島南）
- ④ フェンシングの経験があり、東北大会以上の実績がある者（川俣）

（２）「選抜資料」（面接、小論文・実技等）の特徴ある内容

- ① 英語での自己紹介と日本語での将来の夢についてのスピーチ（岩瀬農業）
- ② 主体性、共同性を見るためのグループワーク（ふたば未来学園）
- ③ 自分の個性や良さをアピールするパーソナルプレゼンテーション（光南、西会津）
- ④ 音楽活動分野志願者への実技（安積黎明）

4 今後の取組

- 体験入学等の機会に中学生・保護者に新しい制度について丁寧に説明し、理解の定着を図る。
- 各校の特徴を明確にすることで、受験生は自分の将来を切り開く最適の学校を選択し、志願することが可能となるため、各高等学校において、特色選抜の趣旨を活かして、自校の更なる特色化・魅力化を図る。

〈参考〉

◎特色選抜の定員割合（令和元年5月30日公表）

定員割合	学 校 名
5 %	福島 橘 安積 白河実業 磐城 勿来 勿来工業 福島中央
10 %	福島西（普通） 福島東 安積黎明 郡山（普通） 湖南 須賀川桐陽（普通） 会津 葵 南会津 磐城桜が丘 相馬 保原（定） 郡山萌世（昼間主） 会津第二
13 %	清陵情報
15 %	二本松工業 郡山東 白河旭 修明 会津学鳳 いわき光洋 湯本 相馬東 小高産業技術
20 %	福島明成 保原（普通） 安達 安積御館 郡山（英語） あさか開成 岩瀬農業 白河 会津工業 喜多方東 喜多方桐桜 川口 会津農林 只見 福島工業（定） 白河第二
25 %	福島南 安達東 石川 船引 平商業 いわき総合 原町 いわき翠の杜（夜間主）
30 %	福島工業 川俣 修明鮫川 喜多方 大沼 小名浜 磐城農業 遠野 四倉 相馬農業
35 %	福島北 耶麻農業
40 %	福島商業 梁川 保原（商業） 郡山商業 郡山北工業 須賀川桐陽（数理科学） 長沼 塙工業 田村（普通） 小野 若松商業 田島 いわき海星 好間 ふたば未来学園 新地 いわき翠の杜（昼間主）
45 %	福島西（デザイン科学） 須賀川（普通）
50 %	本宮 須賀川（オフィス情報） 光南 猪苗代 西会津 坂下 平工業 郡山萌世（夜間主）
80 %	田村（体育）

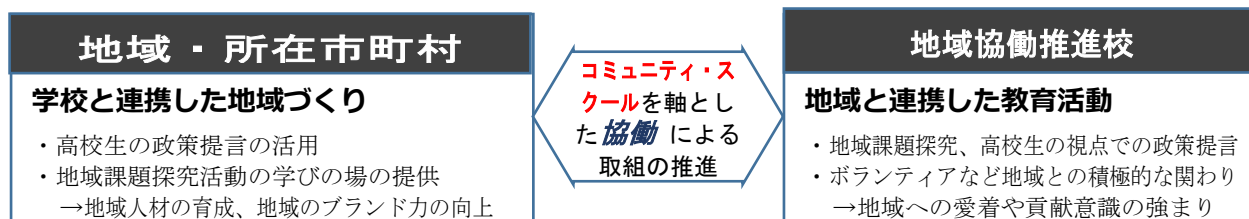
※ （ ）の高校は学科やコース毎に定員割合を設定している。

※ 田村高校の体育科は、例外的に定員割合80%で承認されている。

県立高校へのコミュニティ・スクールの導入について

県立高等学校改革前期実施計画で示した地域協働推進校について、地域を支える核となって活躍し、地域社会に貢献できる人材の育成に向けて、地域との協働により学校運営ができる仕組みを構築するために、コミュニティ・スクールを導入する。

1 地域と学校の協働による取組の推進



地域と学校がWIN-WINの関係に！

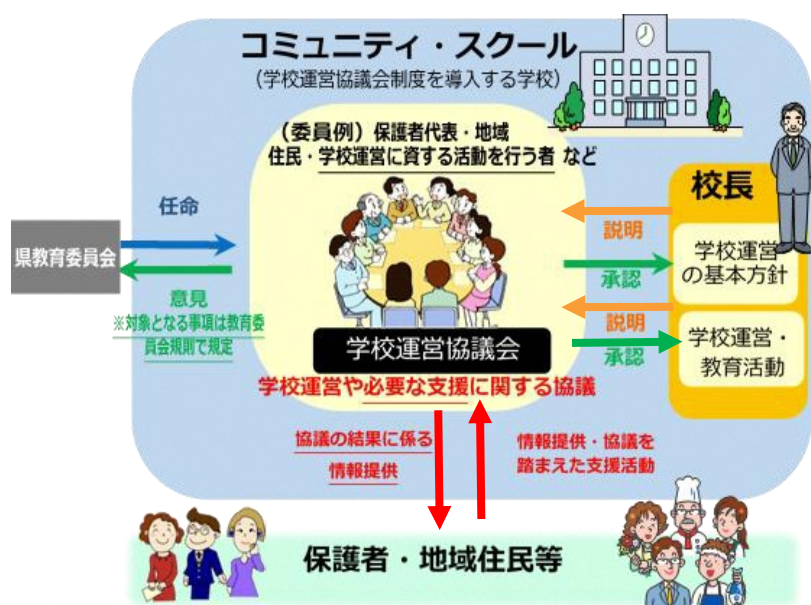
2 コミュニティ・スクールとは何か

「学校運営協議会制度」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の6」に基づく制度で、教育委員会が、地域や学校の実情に応じて学校の運営・支援に関して協議する学校運営協議会を設置する制度である。

学校運営協議会の主な機能

- 校長が作成する学校運営の**基本方針の承認**をすること
- **学校運営について**、教育委員会又は校長に**意見を述べる**ことができること、など

図 学校運営協議会を中心とした地域と学校の協働のイメージ



コミュニティ・スクールは、地域とともにある学校づくりの有効なツール

地域と学校とが、共通の課題意識や目標等を共有するとともに、設定した目標の達成にむかって、ともに前進し行動

→ 地域住民による地域の学校への当事者意識やモチベーションの向上
→ 学校の教育活動の充実

地域社会に支えられているという実感が、生徒の自己肯定感や地域への愛着、貢献意識を醸成

復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業の構造

全県立高校対象・3年計画(H29～R元)の3年目

【特色】

- ☑ 震災後、地域が抱える課題等について生徒が自分たちで考え、見出す。
 - ☑ 高校生ならではの視点や活動を支援する。
 - ☑ 地域課題の解決に向けた学習の「プロセス」体験を重視する。
- 将来「アクティブ・ラーナー」として本県の復興に貢献する人材の育成

成果

ふくしま
高校生
社会貢献活動
コンテスト

県全体

【活動の発信】

高校生地域貢献サミット

県内5地区で開催(各校代表生徒が集結)

【地域課題の共有・解決策協議】

各地区

地域課題探究活動【課題の発見と実践】

活動例: 総合的な学習...風評払拭のための行政への提言
地産地消商品の開発・販売
生徒会活動等...施設訪問ボランティア、演劇の発表

各高校

グループワーク
フィールドワーク
プレゼンテーション
パネルディスカッション
ポスターセッション
.....

教員による指導

各授業

全教科でAL型授業の日常化【探究スキルの習得】

- ◆ 「探究スキル」...課題への関心・把握・情報収集・考察・構想・解決・振り返りの一連の学習プロセスにより身に付く力
- ◆ 目標...物事の見方・考え方を総合的に身に付け、物事の本質を見極め、自分と社会との関わり方についての理解を深める。

復興へ向けて主体的に行動できる生徒を育成するための「教育体制」の構築

先進校から地域課題解決の実践知を学ぶ

- 先進校研修 ○ ふたば未来学園研修 ○ 先進校研修報告会
- ALの基本や学校としての取り組み方などを学ぶ
- アクティブ・ラーナー教員養成研修会 ○ 主権者教育推進コーディネーター養成研修会

アクティブ・ラーナー教員養成プロジェクト【教員】

先生がまずアクティブ・ラーナーに!

学習の深まり

福島県の生徒
たちを、
明日の復興を
担うアクティブ・
ラーナー
として育成!

明日の復興を担うリーダー育成プロジェクト【生徒】

【更に関心の高い生徒】

- 高校生のための生き方セミナー
- 高校生同士が生き方や働き方等を討論し、市民性等を育む。

【復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業】

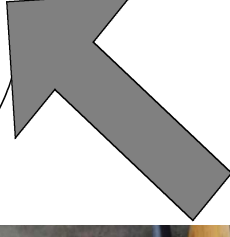


高校生社会貢献活動コンテストでの
プレゼンテーション



高校生地域貢献サミットでの交流

福島県の生徒たちを、
明日の復興を担う
アクティブ・ラーナー
として育成



【アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業】

- 1 大学進学ミツシヨン支援事業
 - 対象：県立高等学校18校
 - 各校の特色と生徒の実態に
対応した進学指導の実現
 - 大学入試改革への対応
- 2 スペシャリスト育成ミツシヨン
支援事業
 - 対象：県立高等学校20校
 - 各校の特色と生徒の実態に
対応したキャリア教育の実現
 - 就職内定率の向上
 - 離職率の改善
- 3 オールふくしまリーダー育成
プロジェクト
 - 次代のリーダーとなる
人材の育成



オールふくしまリーダー育成プロジェクトに
おけるグループワーク



オールふくしまリーダー育成プロジェクトに
おけるプレゼンテーション

福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成

「福島イノベーション・コースト構想」の実現を担う人材育成のため、県内各地域の対象校が各校の特色を生かした魅力的な教育プログラムを実践しています。



成果報告会(H31.2月)



磐城農業高校ドローン講座(H30.11月)



原町高校キックオフセミナー(R1.5月)



磐城高校キックオフセミナー終了後の
校長室～講師を囲んでの意見交換～
(H31.4月)



勿来工業高校常磐共同火力(株)
勿来発電所企業見学(R1.6月)

会津・中通りの専門高校 (18校)

先端技術企業や研究機関
の外部講師による技術指導
や講義、共同研究の実施。

浜通り地域等の高校と会津・中通りの専門高校の教育プログラムと人的交流を図り、
県内に成果を広く発信、人材育成の普及を図ります。

トップリーダーの育成

- 磐城高校 ● 相馬高校
- 原町高校

I C Tを活用した探究学習、
先進研究施設見学、大学最先端
研究、廃炉研究、英語・国際理
解研修、地域理解、等

工業人材の育成

- 平工業高校 川俣高校
- 勿来工業高校

先進企業見学及び技術者によ
る技術指導、マーケティング・プレゼン
スルの向上、味付け製作、等

農水産業人材の育成

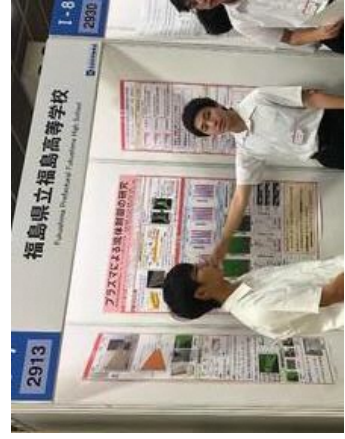
- 相馬農業高校 ● 磐城農業高校
- いわき海星高校

植物工場におけるスマート農業の
実践、バイカウス発電研究、海洋
IoTセンサー製作と遠隔観測、水中
ドローン、陸上養殖、等

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組

福島高等学校

- 平成29年度3期目指定
通算13年目
- 研究開発課題名
「高い専門性と地域のリーダーとしての資質を併せもつ世界で活躍する科学技術人材の育成」
- 主な取組事例
 - ・ 平成30年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会にて科学技術振興機構理事長賞（全国第2位相当）受賞
 - ・ 研究題目
「プラズマによる流体制御の研究」



安積高等学校

- 令和元年度2期目指定
通算6年目
- 研究開発課題名
「新しい社会を拓く創造性とレジリエンスを身につけた科学技術系リーダーの育成」
- 主な取組事例
 - ・ 第1回地域連絡協議会を開催
SSH事業の計画立案、実践、評価・改善について、教員のみならず、保護者代表、地域の連携先の代表者が参画し、「開かれたカリキュラム・マネジメント」を目指す。



会津学鳳中学校・高等学校

- 平成28年度2期目指定
通算10年目
 - 研究開発課題名
「会津から世界を変える科学技術者の育成～グローバル人材育成プログラムの開発～」
 - 主な取組事例
 - ・ 平成30年度 SSH台湾海外研修
平成30年12月23日(日)～27日(木)
台湾（国立清華大学、台北市立建国高級中学校、国立放射光研究センター、関東自然公園）
- 対象生徒：高校2年生 科目SS選択者による希望者女子13名、男子5名



農業高校のG A P 認証取得について

- 現在、G G A P 認証を取得した学校は、岩瀬農業、会津農林の2校。
J G A P 認証を取得した学校は、福島明成、安達東、白河実業、修明、小野、耶麻農業、磐城農業、相馬農業の8校である。
- 今年度、福島明成、安達東、岩瀬農業、会津農林、磐城農業、相馬農業の6校が新たに追加品目でG A P の認証取得を目指している。

○ 本年度、農業高校が計画しているG A P の取組

	学 校 名	取 組 内 容
1	福島明成	(継続)JGAP 米、トマト、ミニトマト、レタス、小松菜、 春菊、チンゲンサイ (新規)JGAP モモ、リンゴ、ナシ、タマネギ、パレイショ、 ニンニク、ソラマメ、ネギ、スイートコーン、 エダマメ、ニンジン、カンショ、ブロッコリー、 サトイモ
2	安達東	(継続)JGAP ネギ、タマネギ、ナス (新規)JGAP ダイコン
3	岩瀬農業	(継続)GGAP 米、リンゴ、バジル、キュウリ、レタス、ミズナ、 (新規)GGAP ジャガイモ、ダイコン、メロン、ナシ、サツマイモ
4	白河実業	(継続)JGAP 米
5	修 明	(継続)JGAP トマト、リーフレタス
6	小 野	(継続)JGAP エダマメ、
7	耶麻農業	(継続)JGAP 米、ソバ
8	会津農林	(継続)GGAP 米、小菊カボチャ (新規)GGAP そば
9	磐城農業	(継続)JGAP 米、トマト、ハウレンソウ (新規)JGAP ナシ
10	相馬農業	(継続)JGAP 米 (新規)AGAP トマト



三重県の農業高校生徒のG A P 意見交換会



G - G A P 認証を取得した岩瀬農業高校

ふたば未来学園高等学校における取組

「変革者たれ！」ふたば未来学園における教育実践

一ふたば未来学園高等学校スーパーグローバルハイスクール事業での取組 未来創造探究

- 「原子力災害からの復興」をテーマの中心とし、グローバルな視点から地域課題の解決及び地域再生を行うなど、地域課題解決のための探究と実践に取り組みました。
- 生徒が自ら企画・運営し「高校生と考える廃炉座談会」を開催しました。住民と専門家がそれぞれ意見を交換し、風評被害・コミュニティの構築・廃炉などの観点から問題を掘り下げ、解決策を考え、情報共有する機会となりました。



廃炉座談会



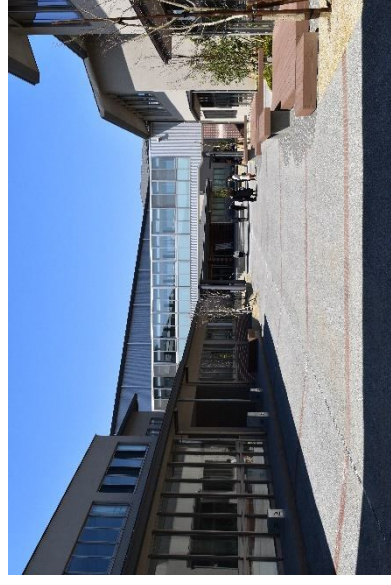
ニューヨーク研修(国連)

ニューヨーク研修

- 国際機関や世界の同世代と交流を行い、国連本部において「持続可能な社会を実現するこれからの科学技術への向き合い方」と「誤解やフェイクニュースによる分断を超えるコミュニケーション」についてスピーチを行うなど、グローバルな視点で未来を創造する一歩としました。

一ふたば未来学園併設中学校のカリキュラムの検討、本校舎の整備

- 特色あるカリキュラムの具体的な教育計画を作成しました。
- 新校舎が完成し、平成31年4月に開校したことにより、6年間の一貫した教育活動が始まりました。
- 中学校の1期生として60名（一般50名、スポーツ10名）が入学しました。



ふたば未来学園新校舎



Cross Training Program

工商連携相互学習の取組

工業科と商業科における学習内容を相互に学習するプログラム

関連付ける力

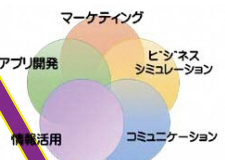
自分の専門得意分野以外の解決策やアイデアを組み合わせて、問題の解決策を見つける



工業科
機械科
電気科
工業化学科
産業革新科
環境化学コース
電子制御コース

連携

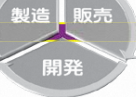
商業科
流通ビジネス科
情報ビジネス科
産業革新科
ICTコース
経済・金融コース



新たな価値を発見し、地域復興を実現する力の育成

人とつながる力

課題解決のアイデアを創造するために様々な部門、産業、地域の人から情報をもらい連携する



試す力

工業科と商業科の併設校の強みを生かし、考えるだけでなく、形にしたり試したりする

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール

SPH 工業科の取組

新たな産業集積に対応できる工業人の育成

多面的・総合的に考える力

現状を分析して、課題の解決に資するロボットを創造できる力を身に付ける

未来を予測して計画できる力

地域のエネルギー事情について分析・検討し、再生可能エネルギーに関する知識・技術を身に付ける

課題解決のために挑戦し続ける力

環境汚染の状況調査を行い、土壌・大気・水質及び放射能について分析・評価する知識・技術を身に付ける

H29の取組内容（基礎技術の習得、施設研修）



制御ロボット実習



再生可能エネルギー施設研修



環境分析・調査



地域復興に関する講演会

平成29年度研究成果

学習したことを生かし、地域復興に貢献したいと思うか。

	①思う	②少し思う	③あまり思わない	④思わない
事前	8%	36%	39%	17%
事後	22%	36%	30%	12%

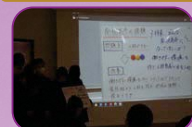
地域に目を向ける取り組みにより、地域産業への理解、地域の現状把握を通して、「郷土愛」が増幅し、地域のために何かしたいという思いが強くなったと考える。また、課題として「専門性の育成」があげられたので、専門性の育成が「生活を豊かにする分野」でも必要な技術であることを前面に出し、学習する目的意識を持たせる取り組みが必要であるとする。

故からの地域復興を担う人材の育成

基礎H29から発展H30そして応用実践へH31

H29の取組内容（合同・連携授業、講演会）

Cross Training Program① 知識構成型ジグソー法を活用した地域課題探究のための合同授業



Cross Training Program② 工・商の各専門的思考を高めるための工商教員連携授業

①工業的な思考によるビジネスアイデア発想【バー・パートナー製作】



②商業的な思考による製品考案・計画
【即席難を活用した顧客満足につながる製品計画演習】



Cross Training Program③ 地域復興に携わる経営者・大学教授を招いた外部講師講演会



福島ガイナックスによる講演会

会津大学教授による講演会

平成29年度研究成果

他学科に対する興味・関心を高め、地域の課題解決に向けて取り組みたいと思うか。

	①思う	②少し思う	③あまり思わない	④思わない
事前	1.8%	30.0%	33.6%	34.5%
事後	60.9%	21.8%	13.6%	3.6%

工商連携という新たな試みから他学科とのつながりや新たな発想・創造力などの相乗効果を得られ、視点を考えることで課題解決の糸口をつかむ変化が見られた。次年度においては1年次の基礎づくりの取り組みを進展させより専門性を意識した活動を行っていくことが重要であるとする。

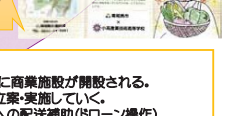
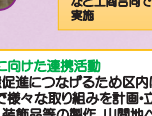
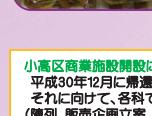
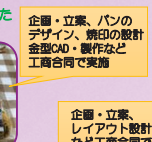
H30の取組内容（一部）

「おだかよろず相談」

地域の方が抱える問題の解決、また、地域の特色となる商品を開発するために、「よろず相談（パンフ配布・相談ボックスの設置）」を開設し、各科それぞれで学習した知識・技術を生かし、地域・市と連携しながら、課題解決に取り組む。

★寄せられたご意見（一部）

「地元の方が親しみのもてる商品があったらいいな！」
「地元の特産品をもっとPRできたらいいな！」
「閑散としているまちなかが明るくなってほしい！」



小高区商業施設開設に向けた連携活動
平成30年12月に推進促進につなげるため区内に商業施設が開設される。それに向けて、各科で様々な取り組みを計画・立案・実施していく。（陳列、販売企画立案、被服品等の製作、山間地への配送補助（ドローン操作））

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール

SPH 商業科の取組

地域の資源や新しい技術をビジネスに活用できる人材の育成

多面的・総合的・批判的に考える力

・地域経済をビジネスに活用する知識・技術を身に付ける

未来を予測し、企画・立案する力

・地域の資源や新しい技術を活用し、ビジネスの企画・立案に関する知識・技術を身に付ける

課題解決のために挑戦し続ける力

・ビジネスや地域産業の復興に活用できるアプリケーションソフトに関する知識・技術を身に付ける

人とつながる力【コミュニケーション力・伝える力】

・地域復興・活性化につなげるための地域資源を効果的に情報発信に関する知識・技術を身に付ける

情報収集・活用力

・ビジネスや地域資源を見直すために必要な知識・技術を身に付ける

H29の取組内容（被災地研修・外部講師・校外実習等）



町内での市場調査活動



石巻復興バス見学



外部講師を招いたプレゼン研修



地域活性化のための販売実習

平成29年度研究成果

学習したことを生かし、地域復興に向けてチャレンジしていきたいと思うか。

	①思う	②少し思う	③あまり思わない	④思わない
事前	2%	36%	39%	17%
事後	8%	36%	30%	12%

1年間の学習を通してこの地域の現状を理解し、地域が持つ課題を見つけ、解決策を想像するための基礎力を養うことができた。課題としては「基礎づくりの1年」として、専門的思考がやや不足してしまった。2年次以降に向けより実践的・体験的学習を実施し、新しい技術の活用や専門性の深化を行い、ビジネス実践力を磨いていくことが重要であるとする。

勿来高等学校といわき支援学校くぼた校との連携

高校教育課

1 高校と特別支援学校の協働

- 平成27年度にいわき支援学校くぼた校が開校し、1つの校舎内に2つの学校
- 勿来高校とくぼた校との交流及び共同学習の実施
例；作業学習体験（1学年「共生プログラム」）
- くぼた校教員から高校教員への技術指導やアドバイス
- 地域との連携
例；スーパーでの両校生徒による交通安全キャンペーン

2 1年次における「スキルトレーニング」

- 対象 勿来高校1年生全員
- 総合的な探究の時間（金曜日の5校時）に実施
※ 平成30年度は、6回実施
- 内容は「多様性について」「言葉の伝え方」「気持ちのコントロール」など
- 適切な人間関係の構築に必要なスキルを身につける

3 2年次における「通級による指導でのスキルトレーニング」

- 対象 勿来高校2年生（個別に指導が必要な生徒）
- 実施内容の例
 - ・ 失敗やミスをした時に周囲の人に報告ができるようにする
 - ・ 状況に応じて優先順位をつけて行動ができるようにする
 - ・ 基本的な身辺自立（洗濯）ができるようにする
 - ・ スケジュール管理ができるようにする
 - ・ 報告、連絡、相談ができるようにする

英語指導力向上事業

- 外部専門機関（福島大学、宮城教育大学）との連携による、授業改善を踏まえた、教員の英語指導力向上とその研究成果の普及
- 小中高連携による授業改善（会津若松市立城西小学校、会津若松市立第三中学校、県立葵高等学校）

平成30年度の取組

会津若松市立城西小学校

- 主な取組事例
 - ① 指導と評価に役立つ1単元1枚のCAN-DOカード
 - ② ICTを効果的に活用した授業
- 授業研究 9月12日
指導助言 宮城教育大学准教授

会津若松市立第三中学校

- 主な取組事例
 - ① 自己表現力とコミュニケーション力の育成を目指した学習活動の工夫
 - ② 4技能の総合的な育成を図る言語活動の工夫等
- 授業研究 10月23日
指導助言 福島大学准教授

県立葵高等学校

- 主な取組事例
 - ① 4技能をバランスよく育成するための言語活動の充実
 - ② 語彙力定着に向けての取組等
- 公開授業 12月6日
指導助言 福島大学教授

平成30年度の成果

- 異校種間の連携により、児童・生徒の英語学習の課程を確認することで、各校種におけるゴール設定がしやすくなった。
- CAN-DOリストの整備が進んだ。

成果の普及・周知

- 外国語教育だより（English Wind）の発行（義務教育課）により周知